

京都のつばさ

日本航空の不当解雇撤回勝利をめざす京都共闘会議

第 38 号

2017 年 6 月 28 日
京都府京都市中京区壬生仙念
町 30-2 ラポール京都 5F
京都総評気付
TEL075-801-2308
F A X075-812-4149
E-mail:sinamu2002@yahoo.co.jp

稲盛名誉会長引き続き欠席、京都市美術館命名権問題で追及し賛同者も。活気のない京セラの会社、JAL165名不当解雇撤回で京セラも再出発こそ求められている

<京セラ株主総会の報告>

2017年6月27日、京都市伏見区の京セラ本社ビル最上階・20階のホールにて京セラ株主総会が開かれ、4年連続の出席となった(28年前までの神奈川工場の争議のあとも1回出席はしたが)。午前10時に総会は開会されたが、その1時間前から地域の“日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議”の仲間と近畿や東京から参加したJAL不当解雇撤回原告団が、「JAL稲盛和夫名誉顧問(京セラ創業者)は直接交渉を行え」などの横断幕や「JAL不当解雇撤回」などのノボリ旗を掲げて京セラ百メートルビル前に居並ぶ。そして今年はそのメンバーに加え、「私たちは京都市美術館の売名に同意しない」という横断幕を広げ、「美術館、名前が変わるだけではないんです」というビラを道行く人や株主総会参加者に配布しアピールする「京都市美術館問題を考える会」のたくさんの市民が、宣伝行動を独自に行った。

株主や通行人が同じく裏面に京都市美術館命名権問題を論じたJAL闘争京都支援共闘のビラを受け取り、早々と用意したビラはなくなってしまふ。京都支援共闘の梶川憲世話人(京都総評議長)から主催者挨拶を受け、JAL客乗原告団の鈴木圭子副団長から「稲盛名誉顧問と直接会って、断固勝利を勝ち取る」という力強い決意を受けた。



(JAL 稲盛和夫元会長の責任を求める)



(「京都市美術館の名前を奪わないで」と訴え)

地元で闘う伏見地区労から闘う決意を受け、たくさんの労働相談を受けながら労働争議を闘うきょうとユニオンの仲間からは、「稲盛和夫が塾長の盛和塾に勉強に行っている経営者と団交を行うが、決まって共通しているのが、うそをつくということである。稲盛に必ず会って勝利をかちとろう」力強い連帯挨拶も受けた。

株主も大いに関心を示す抗議・宣伝行動も終了し、京セラ株主総会が開会する。司会兼執行議長兼事業報告兼議案提案が新社長の谷本秀夫氏よりなされ、質疑に入った。社長は、「過去に日本航空の問題が出されたが、日本航空の労使問題については別会社の問題なのでくれぐれも発言をお断りする。質問は短くひとり2点まで。会社役員個人の誹謗中傷はしてならない」という条件をくどくど3年目だが同文を述べた。おかげで、知らなかった人間まで含めて何か京セラはJALの労使問題と関係があると気づかせ、受け取った労組のビラをカバンから取り出す人も出てきた。すごい逆宣伝を今年も社長はしてくれた。

今年の特徴は昨年に引き続き稲盛和夫名誉会長が欠席したことである。「元気にはしているんですが、役員でもなくなりましたので・・・」と言いながら、稲盛和夫のあいさつ文を顔写真とともに冒頭に掲載する議案書を社長は報告・提案していく。そして、活気がなくなり、出席も後ろの方では空席も出てきて、私は縦 20 列の前から三分の二列目くらい、横には少し西側の社長と目線がちょうど合うところに座った（横は 21 人の席、420 席・7割がたの出席）。報告・提案を終えて質疑になり、私しか挙手をしないのである。社長が他の出席者に水向け、水向けしてやっと手が上がり、しかし勢いもなく 2~3 人目で社長は私にしぶしぶあてざるを得なくなる。

私は、「①**岡崎の京都市美術館を京セラが50年間・50億円で買い取るという問題で**、市民やなかんづく内外の芸術家から反対の意見が出て、輦蹙をかい、まるで札束で人の頬をたたきたくやうで私たちは株主として格好悪い。是正する考えはないか。②京セラの事業：自然再生エネルギーの普及・太陽光パネルを広めるためにも、6年前福島第一原発事故を引き起こしてしままだに原因の燃料もロボットでさえ見れていない**危険な原子力発電所の問題について**、教育宣伝を会社としても行う必要があると思うがどうか」という二点の質問を行った。①については特にうなずく株主も多かった。



（「儲けなくして安全なし」の稲盛イズム）（バスで参加する株主への宣伝）

（会社は真摯に団交に応じよ）

これに対し谷本社長は、「①今回の件は京都市から頼まれて行ったことである。芸術家から一部反対の意見もあったが、会社の宣伝のためにも行うことに決定した。②会社事業のために貴重なご意見に感謝し太陽光パネルの普及のため今後とも努力いたしますが、原発について会社としてはコメントする立場にはありません」と、回答にならない回答。

その後、JAL 不当解雇撤回 CA 原告団の副団長でもある**鈴木圭子さんが発言**し、「人口宝石：クレサンベールは赤字にはなっていないのか？銀座の一等地にクレサンベール店があるがすごく入りにくい。なぜか？そして今後ともあの土地で開店するのか？今後のこの部門の事業展開の計画は？そして、きょうも会社の門前で宣伝活動をする人たちがいたが、会社としてどうかするつもりはないのか？」と二点の質問。

社長からは、「**クレサンベール銀座店の入りにくい**ということについては、ありがたいご指摘に感謝する。個々の部門の収益状態についてはお答えできないが、クレサンベールも黒字である。社前宣伝でご迷惑をおかけしているが、会社としてどうこうできない」と、まるでやる気のない答弁に終始。

ある外国人株主は通訳交えなぜか二回も質問できたりして、社長が第二会場まで何度も何度も水向け、鈴木・稲村の質問・発言が突出する雰囲気壊そうとそうとうに努力し、だらだらとした正午近くまでの総会となった。ある高齢の男性株主の「稲盛さんに代わる役員が出てこず、守りに終始し、この2年来成長も止まり、官僚的になっている」という批判意見が的を得た雰囲気の株主総会であり、現在の会社の指導体制となっているといえよう。

京セラの新指導部は、「**別会社のことだ**」などとしらばくれずに、JAL 165名の不当解雇事件の早期解決をリーダーシップをとって図り、斬新な活気ある指導体制づくりが求められているのではと、この JAL 争議に関係なく、他人事ながら一応「株主」として思った。京セラよりも大きく絶対的だった大会社が次々に倒れていく昨今だから。